

TOPICS
2

トピックス…②

令和3年度酪農教育ファーム
認証研修会の概要

本会議と酪農教育ファーム推進委員会は2月25日と3月3日の両日、オンラインによる令和3年度酪農教育ファーム認証研修会を開催した。当研修会は酪農教育ファーム活動を実践する「酪農教育ファームファシリテーター」の認証を目的としており、2回合計で43名が受講し、酪農教育ファーム活動の目的と意義、酪農教育ファーム認証制度の仕組み、酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策等を学ぶとともに、酪農教育ファームファシリテーターの役割を学ぶワークショップを行った。

1. 最近の酪農をめぐる情勢等の説明

研修会の冒頭で本会議職員が、最近の酪農をめぐる情勢等について説明した。

その中で、生乳需給をめぐる情勢に関して、年末年始における処理不可能乳の発生を回避するために本会議や指定団体、農水省などが取り組んだ対策内容を紹介した。

また、年度末にも再び生乳需給が緩和する懸念があり、本会議としては当面、需給改善をテーマに理解醸成活動を含めた取り組みを進めていくこと、消費拡大について今後とも協力を願うことがあることを説明した。

さらに、受講者のそれぞれが、今後はファシリテーターとして各地域において日本酪農や国産牛乳乳製品の魅力を伝えて、酪農教育ファーム活動の目的『酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する』に取り組むことの重要性に言及した。

2. 活動における安全・衛生・防疫対策の基準に関する講演

(1) 第1回研修会（2月25日開催、受講生25名）

千葉県農業共済組合・西部家畜診療所技術主査の天野はな氏による講演を実施した。

令和2年4月に改正された家畜伝染病予防法の概要と、同法に基づく飼養衛生管理基準の改正ポイントを説明した上で、酪農教育ファームの活動を行う際、『来場者』と『受け入れる牧場』の双方における「安全」と「衛生面」について、どのようなことを意識すればよいのか、どのようなことを実践したらよいのか等について具体的な解説がなされた。

とくに、衛生管理区域の出入口の消毒設置などが重要になっていることに触れ、「見学者に牧場を体験してもらう場合、ここは来場者を入れて触ってもらう場所、ここからは立ち入り禁止にするなど衛生管理区域の中でもさらに細かく区域を分けることも検討してほしい」と説明した。

また、本会議と地域交流牧場全国連絡会が令和2年6月に作成した「新型コロナウイルスを想定した消費者交流活動に係る感染予防ガイドライン」も紹介し、牧場の状況に即した具体的な感染予防対策の実施を行うとともに、牧場が対策を実施していることを十分に説明して来場者の協力を得ることも呼びかけた。

(2) 第2回研修会（3月3日開催、受講生18名）

酪農学園大学・獣医学群・獣医学類・獣医細菌学ユニット講師の村田 亮氏による講演を実施した。

酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策の観点から、安全に関しては危険区域の事前確認、アレルギー体質の子どもへの配慮、熱中症対策、ケガについての留意点、衛生に関しては感染症の基本対策の重要性が強調された。とくに、感染症の基本対策について、ウシに感染して問題となる伝染病と、ヒトに感染して問題となる伝染病とに分けて、詳細な解説がなされた。

また、牧場来場者への啓発活動として重要な点として、次の事項が指摘された。

- ①動物から感染する病気があることを説明する。
- ②過剰な触れあい（キスなど）を避け、手洗いを励行することで動物に由来する感染症の多くは予防できることを説明する。
- ③効果的な手洗い法を説明する。
- ④動物エリアへの飲食物、おしゃぶり、ぬいぐるみ、おもちゃ等の持ち込みは禁止する。
- ⑤エリア内では喫煙、化粧直しをしないこと、また小児に指しゃぶりをさせないように注意する。
- ⑥糞便に触れないように注意する。
- ⑦幼児には必ず監督者が伴うようにする。
- ⑧動物に触れる際は爪を短く切るよう事前に周知する。
- ⑨これらの注意事項を分かりやすく示したものを入場口に提示する。
- ⑩動物エリアからの退場時に手洗いをすること、並びに手洗い場所へ誘導する標識を掲示する。
- ⑪来場者に注意事項を周知するため、教育を受けた担当者を動物エリアに配置することが望ましい。
- ⑫施設内に飲食物販売店がある場合には、手洗い後に飲食することを啓発する。

3. 「ファシリテーターの役割」を学び合うワークショップ

NPO法人いぶり自然学校代表理事の上田 融氏を講師に迎え、コロナ禍で「子どもに体験させることができない状況でどうするか」を考える事を通して、ファシリテーションの本質的な理解を促すことを目標として、ワークショップ（酪農教育ファームファシリテーターの役割）を行った。

酪農教育ファームファシリテーターの役割とは、「来場者が酪農体験を通して『食やしごと、いのちの大切さ』に自ら気づき、それらを日常生活に活かしていけるように手助けすること」であり、このことを本ワークショップの参加者自ら気付くこと、そして自分自身が大切にしたい活動の「あり方」を見つけることが大切である。